よつ葉薬局における実習

Catherine Newman

施設概要

* 所在地

〒185-0023
東京都国分寺市西元町2-16-34
ｻﾞ･ﾗｲｵﾝｽﾞ武蔵国分寺公園125号室

* 薬剤師数：6名（管理栄養士1名、ハーバルセラピスト1名）

* 1日平均処方箋枚数：約30枚

実習スケジュール

* 実習1日の大まかなスケジュール

実習時間は以下の3パターンあり、
指導薬剤師に合わせて時間調節があった。
①8：00～17：00（途中1時間休憩含む）
②12：00～20：00（途中30分休憩含む）
③13：00～21：00（途中30分休憩含む）

実習スケジュール一覧表

5月（14日～）	6月	7月（～27日）
14日実習導入。社会人の心得、学問とは何かについて。作文「なりたい薬剤師像」。 15日守秘義務、倫理規定、薬局の理念について。 16日作文「個人情報保護法について」。調剤機具の使用方法説明。薬局業務導入。 17日薬剤師の資質と職能の講義。作文「支えあう人としての薬剤師」。 18日接遇・マナー、プライマリ・ケアについて。 21日コーチング、コミュニケーションについて。 22日作文「コミュニケーションについて」。処方箋受付ロールプレイ。 23日薬局業務説明。新患処方箋受付ロールプレイ。 24日電話応対マナー。 25日レポート「調剤事故・過誤」。法的規制のかかる薬物について。栄養管理指導。 28日初回インタビューロールプレイ。薬剤鑑査。 29日初回インタビューロールプレイ。 30日調剤。 31日薬歴管理の意義と重要性。糖尿病について。薬歴簿と調剤録について。	1日初回インタビュー実施。インスリン製剤について。喘息の吸入器取り扱い方法の習得。 4日訪問薬剤管理業務、レセプトについて。 5日在宅・居宅支援、薬局開設条件について。 6日レセプトについて。 7日後発医薬品について。介護老人保健施設への同行。 8日患者服薬情報報告書の作成。 11日疼痛緩和ケアについて。栄養指導基礎講義。作文「在宅医療における薬剤師と薬歴の必要性」。 12日医薬品安全性情報報告書の作成。禁煙支援、WADA、JADA、ドーピングについて。 13日学校薬剤師についての講義。 14日介護保険基礎知識についての講義。 15日ケアマネージャーさんにインタビュー。 18日薬局製剤、漢方薬講義。疑義照会分類表作成。 19日地域の中学校にて発表。 20日薬局業務。 21日疑義照会内容分類。 22日チーム医療、CDTMについての講義。 25日子供の成長と薬について。 26日学校薬剤師の仕事に同行。 27日DEET情報検索。 28日地域医療、コミュニケーションについて。 29日薬局開催の催し物にて発表。 30日棚卸体験。	2日納品医薬品の受け取りや調剤。 3日喘息治療用吸入薬支援のロールプレイ。 4日介護老人保健施設への同行。疑義照会。 5日服薬支援の意義について。 6日SOAPマスターファイル作製方法の習得。 10日疑義照会論文作成。 11日服薬支援について。 12日在宅支援への同行。介護老人保健施設の施設案内。 13日小児喘息の服薬支援について。 17日服薬支援の実施。 18日薬歴の記載方法について。 19日服薬支援の実施。 20日服薬支援の実施。 23日薬剤師会に針の廃棄に同行。 24日在宅支援業務に同行。 25日漢方薬局訪問。 26日まとめ。 27日まとめ。

印象的だった実習項目1

* 在宅、居宅支援の見学

在宅や居宅支援に数回ほど同行させていただいた。

支援場所が薬局から患者宅へ変わるだけで、服薬支援内容・方法は薬局にいるときとほぼ同様だった。

薬局に来られない患者や飲み方がわからなくなる患者が増加するだろう高齢化社会において、在宅・居宅支援サービスの実施は必要不可欠になるだろうと感じた。

印象的だった実習項目2

* ケアマネージャーによる講義

国分寺市で働いていらっしゃるケアマネージャーさんに講義をしていただいた。地域の在宅・居宅支援におけるケアマネージャーの仕事や介護保険の仕組み、利用できるサービスなどについて教えていただいた。

実際大変なこともたくさんあるとおっしゃっていましたが、患者へより良いサービスを提供したいという心からの思いが伝わってくる講義・インタビューで、地域医療の重要性を感じた。

印象的だった実習項目3

* 介護老人保健施設の見学

施設では薬剤師がどのような支援を行っているのか同行して見学させていただいた。

薬のセッティングはもちろん、お薬手帳のシール交付・貼り付け、入所している患者さんのインタビューも行われていた。

また施設内の設備見学では、リハビリマシーンやお風呂をみせていただいた。

患者のリハビリ等のケアから、安全面、衛生面と細かな部分まで配慮されていたのが印象的だった。

印象的だった実習項目4

* 中学校での発表

国分寺第二中学校で催された「セーフティー教室」という薬物の啓発活動に同行し、担当の薬剤師と学生で発表をさせていただいた。

薬剤師の先生は「薬の適正使用」について、私は「どうしたら薬剤師になれるのか」についてお話しした。

350～400人の在校生や先生方の前での発表はとても緊張したが、地域の薬剤師としての活動を体感することができた。

印象的だった実習項目5

* 薬剤の性質調査

薬局実習中には何度か薬剤の交付・選択について考える機会があった。

具体的には懸濁可能な薬剤なのか、何分程度で懸濁できるのか、分包するにあたって吸湿性のある薬剤は一包化しても問題ないか、錠剤の粉砕・散剤同士の混合は可能か、後発医薬品の選択では製剤情報提供等のデータがあるか確認するなどの事例がった。

薬剤師はただ薬剤を交付しているのではなく、普段からエビデンスに基づいて判断しながら薬剤の性質と患者の服用のことを考えて支援を行っているのだと改めて気づかされる実習内容だった。

もっと実習したかった項目1

* 患者応対

薬局実習を11週間行った中で、最も難しく感じたのは患者応対である。調剤技術や薬の知識等は勉強で習得することが可能かと思うが、患者応対は人が相手のことであり勉強すればうまくなる・できるようになるというものではない。

実際、実習を通して私は肩に力が入り一方的に話したり質問したりしてしまうシーンも少なくなかったように感じる。人を見るという気持ちを、患者応対の経験を通じてもっと行動に反映できるようになりたかったと思う。

もっと実習したかった項目2

* 薬剤師倫理

薬局では社会人の心得に始まり、薬剤師の職能やコミュニケーション、ファーマシューティカルケア、プライマリ・ケアなどについて深く考える機会をいただいた。

しかし意識はしていてもやはり薬を中心に見てしまうことも多々あり、まだまだ身についているとは言えない。習ったことをもっと深め、それを応用してもっと患者支援に生かしたかった。

勉強になった/した項目1

* 小児喘息の学習

よつ葉薬局では小児喘息の患者が多く来局することから、小児喘息の病態や治療に用いられる薬剤、吸入器の吸入方法・手順等について学習した。

1つの疾患を突き詰めて考えると疑問が出てくることも多っかったが、それら疑問を1つ1つ解決していくことが、患者へのより良い服薬支援にもつなげられると感じた。

勉強になった/した項目2

＊ SOAPマスターファイルの学習

SOAPマスターファイルとはSOAP形式に従って疾患についての情報をまとめるものである。

1つの疾患につき1つのファイルを作成する。

的確で素早い服薬支援に生かせるだけではなく、作成することで情報が整理され疾患に対する自分の理解度も深まると感じた。

SOAPマスター　フォーマット例

S/O （症状・徴候）	A（評価）		P（プラン）		
	病因	治療評価	治療（薬物/非薬物）	モニタリング	治療目的/患者教育/予防
・定義 ・症状 ・診断と特有な検査所見 ・診断基準	・病因 ・疫学 ・危険因子 ・病態生理 ・タイプ分け ・発作型分類	・重症度分類 ・薬物治療 ・非薬物治療 ・薬の使用方法確認	・発作型分類別治療 ・非薬物治療 ・治療効果判定 ・治療期間	・検査 ・副作用 ・副作用対応 ・薬物相互作用 ・自、他覚症状	・目的 ・治療のゴール ・教育と再発予防

課題1

* 作文

1.将来なりたい薬剤師像
2.人とのコミュニケーション
3.地域における薬剤師の役割、服薬支援のコミュニケーション
4.プライマリ・ケア
5.支えあう人としての薬剤師
6.薬局における個人情報保護法
7.薬歴の必要性
8.在宅医療における薬剤師の関わり・意義
9.理想の地域薬剤師

課題2

* 患者服薬情報提供書の作成

よつ葉薬局では水剤の抗生剤とビオフェルミンR散が同時交付されることが多い。そこでそれらを混合した場合でもビオフェルミンの耐性が発揮されるのかについて調べた。結果、論文等の文献資料より水剤の抗生剤との混合では耐性であってもビオフェルミンは死滅することが分かった。

そこで医師に情報提供を行うための患者服薬情報提供書を模擬で作成した。

課題3

* 安全性情報報告書の作成

安全性情報報告書のフォーマットをPMDAでダウンロードし、実際過去に起きた緊急安全性情報等の症例を検索・使用して実際に安全性情報報告書を作成した。具体的には茶のしずく、ピオグリタゾン塩酸塩/アクトス、イレッサ錠250（ゲフィチニブ）について安全性情報報告書を作成した。

課題4

* 疑義照会論文の作成

よつ葉薬局における2012年2月と2012年3月度における疑義照会について調査を行った。

まず2・3月の処方箋受付枚数とそのうちの疑義照会回数を調べ、さらに疑義照会内容分類を行った。

そのデータをもとに割合等を算出し、表・グラフを使用して論文形式でレポートを作成した。

課題5

* SOAPマスターファイルの作成

実習ではガイドラインをおおもとにテキスト等を参考にしながら、パワーポイントにて小児喘息についてのSOAPマスターファイルを実際に作成した。

症例報告-1

* 患者：5歳　女性
  107cm　17kg
* 現病歴：2012年6月25日発熱を訴えたため受診。中耳炎と診断される。
* 処方内容：
  （内用）
  クラバモックス小児用ドライシロップ　2.02g
  ビオフェルミンR散　1.7g
  1日2回　朝夕食後　5日分

＃プロブレム：水剤としたクラバモックスドライシロップとビオフェルミンR散の混合可否。

* 目標：乳酸菌が腸に到達し抗生物質による下痢を防ぐ。

症例報告-2

* S:先週は風邪をひいていた。自然に治るだろうと思い、特に薬などで治療はしなかった。ところが、昨日に入り熱を出したため受診した。中耳炎と診断された。耳の痛みはない。クラバモックス飲むのは初めて。
* S:クラバモックス溶かしてもらうついでに、粉薬も一緒に混ぜてもらえないか？

* O：元気そうにテレビを見ていた。
* O:結果…シロップ剤と耐性乳酸菌製剤を混合した場合、乳酸菌製剤は日数の経過とともに死滅した。

•参考文献…藤井次和、若月純恵、大久保耕嗣、渡辺七朗、藤田勝嘉「**各種乳酸菌製剤の抗生物質感受性について**」（新潟県厚生連医師　第8巻　1号　110～114　1998）

* O:クラバモックスは60mLにメスアップし、1回6mLにて調製。

症例報告-3

* A:Oに示した論文より水剤の抗生物質とビオフェルミンR散の混合では、乳酸菌が死滅することが分かった。

* CP:

・混合不可の理由を説明した。しかし、クラバモックスは飛散性高いため、患者自身で溶かして服用か薬局にて水剤に調製するかの2パターンを提案。クラバモックスの水剤の希望があり、水剤でお渡し。

* EP:服用直前にその都度混合するのであれば問題ないことを情報共有した。
* 次回P：クラバモックス初めての服用のため、次回無理なく服用できたかまた下痢がなかったか確認。

将来のビジョン

よつ葉薬局は内装から服薬支援方法まで私が思っていたような薬局とは全く異なっていた。薬剤交付のカウンターもなければ家具の色遣いも華やかで、何より患者・地域の健康のことを本当に熱心に考えている薬局だった。

私は今まで患者ではなく、比較的薬を中心に見る考えだったように思う。しかし、薬剤のこと以前にまず患者と薬剤師の関係すなわち人間同士のコミュニケーションが重要であるということをよつ葉薬局で教わった。

その中でも特に心に残ったのは笑顔・笑声の大切さである。

薬局、病院、企業などどこで働いたとしてもこの薬局で教わった笑顔・笑声を忘れずにひび意識していきたいと思う。